

令和7（2025）年3月  
金城大学附属西南幼稚園  
園長 太田 淳子

## 令和6年度 金城大学附属西南幼稚園 学校評価報告書

### <はじめに>

幼稚園は、教育活動その他の学校運営の状況について評価を行い、その結果に基づき学校運営の改善を図るため必要な措置を講ずることにより、その教育水準の向上に努めなければならない。（学校教育法、学校教育法施行規則）

幼稚園における学校評価は、以下の3つを目的として実施するものとされている。（文部科学省『幼稚園における学校評価ガイドライン [平成23年改訂]』）

- ① 各学校が、自らの教育活動その他の学校運営について、目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取組の適切さ等について評価することにより、学校として組織的・継続的な改善を図ること。
- ② 各学校が、自己評価及び保護者など学校関係者等による評価の実施とその結果の公表・説明により、適切に説明責任を果たすとともに、保護者、地域住民等から理解と参画を得て、学校・家庭・地域の連携協力による学校づくりを進めること。
- ③ 各学校の設置者等が、学校評価の結果に応じて、学校に対する支援や条件整備等の改善措置を講ずることにより、一定水準の教育の質を保証し、その向上を図ること。

評価の形態には、以下の3つがある。

- ① 自己評価：各学校の教育活動などの状況について自ら行う評価（法令上、実施及び公表の義務がある。）
- ② 学校関係者評価：保護者、地域住民等の学校関係者などにより構成された評価委員会等が、自己評価の結果について行う評価（法令上、実施及び公表の努力義務がある。）
- ③ 第三者評価：学校運営に関する外部の専門家を中心とした評価者により、自己評価や学校関係者評価の実施状況を踏まえつつ、教育活動その他の学校運営の状況について専門的視点から行う評価（法令上の義務付けはない。）

本園では「自己評価」及び「学校関係者評価」を実施した。本報告書は、この2つの評価結果と今後の改善方策を取りまとめたものである。

## <実施概要>

### ● 自己評価

#### (1) 教育の質・教育・保護者理解について

教育方針として「あそびの中に学びがある～あそびが充実し、学びが深まる教育～」、また、令和6年度の重点目標として「混合クラスの中で異年齢の子ども達が、年齢の枠を超えて学び合い、成長していく」の実践を掲げ、到達目標は「好きなあそびを見つけ『安心』『熱中』のもとあそびを展開する」とした。評価項目は「あそびの中で十分に体を動かす楽しさを味わう」、「教師や友達と一緒にあそびを進めていく楽しさを味わう」、「身近な物や遊具・自然に興味を持ち、考え・試し・工夫してあそぶ」、「教師や友達と会話を楽しみ、相手に伝えようと工夫する」、「好きなあそびを十分楽しみ、のびのびと表現する楽しさを味わう」の5項目とした。評価指標としては「努力指標」、「成果指標」、「保護者満足度指標」の3指標を設定し、自己評価を行った。

評価の流れは、毎月の月案（ひと月の教育計画）、毎週の週案（1週間の教育計画）を作成し、これらの結果の振り返りを通して自己評価を繰り返し、さらに、2月には各クラス担任が「自己評価表」及び「自己評価シート」を作成し、保護者を対象として実施したアンケート調査の結果も踏まえて自己評価結果を取りまとめた。

#### (2) 保健・安全について

防災マニュアルや防災備品・備蓄の見直しや、津波を想定した大学・小学校4階への避難訓練や引き渡し訓練など、安全面の見直しや実施を重点的に行った。評価指標は計画どおり実施できたかどうかとし、自己評価を行った。

### ● 学校関係者評価

評価員は、PTA会長を含む保護者2人、隣接する松陽小学校の校長、金城大学短期大学部教員の合計4人に依頼した。例年同様、評価員には書面にて自己評価結果を報告するとともに、評価表への記載を依頼した。

<結果>

● 自己評価結果

① 教育の質・教育・保護者理解についての自己評価

- 教育方針：あそびの中に学びがある ～あそびが充実し、学びが深まる教育～
- 教育目標：一人ひとりの個性を伸ばしながら、人間形成の基礎を養い、自主的にあそべる子どもを目指す
- 令和6年度の重点目標：混合クラスの中で異年齢の子ども達が、年齢の枠を超えて学び合い、成長していく
- 具体的活動：
  - \* あそびの中で十分に体を動かす楽しさを味わう
  - \* 教師や友達と一緒にあそびを進めていく楽しさを味わう
  - \* 身近な物や遊具・自然に興味を持ち、考え・試し・工夫してあそぶ
  - \* 教師や友達と会話を楽しみ、相手に伝えようと工夫する
  - \* 好きなあそびを十分楽しみ、のびのびと表現する楽しさを味わう

評価指標	実現状況の達成度判断基準	自己評価(※)
<p><b>【努力指標】</b></p> <p>重点目標に到達するため、どのような経験や環境が必要かを模索し、子どもたちの主体性を生かした教育を行うために、満3歳児から5歳児までの混合クラスとして保育を行う。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>安心して園生活を送る中で、友だちと関わることの楽しさや、遊びの中で充実感ややり遂げようとする姿を育てる。</p>	<p>A：十分達成されている</p> <p>B：達成されている</p> <p>C：あまり達成されていない</p> <p>D：取り組みが不十分である</p>	<p style="text-align: center;"><b>C</b></p> <p>B評価：1人</p> <p>C評価：2人</p>
<p><b>【成果指標】</b></p> <p>好きなことを見つけ、「安心」、「熱中」のもと、あそびを展開する。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したり、充実感をもってやり遂げるようになる。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>主体的・対話的深い学び</p>	<p>A：できている</p> <p>B：だいたいできている</p> <p>C：あまりできていない</p> <p>D：できていない</p>	<p style="text-align: center;"><b>C</b></p> <p>B評価：1人</p> <p>C評価：2人</p>

<p><b>【保護者満足度指標】</b></p> <p>園生活を通して、わが子の成長を感じ、満足しているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・園での様子等を伝える（送迎時または電話）</li> <li>・必要な時は、話し合いの場を設ける。</li> <li>・クラス日より（月1回）全クラスの記事を記載。</li> <li>・クラス懇談会（年1回）、個人懇談会（年2回）</li> <li>・保護者アンケートの実施</li> </ul>	<p>A：十分満足している</p> <p>B：満足している</p> <p>C：やや満足している</p> <p>D：不満である</p>	<p style="text-align: center;"><b>C</b></p> <p style="text-align: center;">C 評価：3人</p>
--	--	--

(※) 自己評価の結果は、各クラス担任（3人）の評価から総合的に判定した。

② 各クラス担任等による取組状況・自己評価

クラス等	取り組み状況・自己評価等	課題・改善策等
<p>満3歳児</p> <p>・</p> <p>3歳児</p>	<p>異年齢保育を始めることで生活の場が他学年と共同となり、環境の変化に動揺する場面が見られたため、子ども一人ひとりが安心できる場所でゆったりと過ごせることが第一と考え、環境設定を当初から変更することにした。教師間でねらいを話し合い、思いを共有することで援助方法が少しずつ定まってきた。</p> <p>年下児の不安が解消される中、年中・年長児が生活やあそびの中で、物足りなさを感じる場面が増えてきた。時々、クラス別の活動を取り入れることで、問題は解消され、安心と自信をつけることができた。</p> <p>また、教師の手を必要とする子どもが多く、教師も対応に追われる場面があったが、年上児が教師のような役割を果たしてくれ、少しずつお互い良い関係性を築くことができた</p>	<p>年少児以下にとっては、まず自己を尊重されて安心感を得ることが必要となってくる反面、年中児以上は、園生活の決まりを守ったり、集団行動ができるようになることが大切になってくる。この違いを、その都度、教師間で確認・相談をしていかなければならない。</p> <p>教師の手が必要な子どもが多く、教師の数が限られている中で、どのように取り組んでいくかを考える必要がある。そんな中でも、子ども同士で育ち合う状況も自然と作れたので、“子ども主体の保育”の土台作りには活かせられたと感じた。来年度以降も継続していけたらと思う。</p>

	と思う。	
4 歳児	<p>混合保育を実施するにあたり、異年齢の子どもたちがお互い刺激し合い、より主体性を持って園生活を送れるよう、子ども同士の関わり合いを大切にし、“待つ”ということを意識し、教育・保育に取り組んできた。当初は、積極的に行動する様子だったり、逆に心配な姿が見られる様子もあつたりと色々な姿が見られた。2学期に入り、仲間同士で活発にあそびに没頭するクラスの中で、なかなかあそびの中に入れない園児(A)の姿があつた。生活に不慣れな新入園児に関わることで、Aにじっくりと関わってあげられないと深く反省する日々が続いた。他の教師にも協力を仰ぎ、子どもが安心して過ごせる環境について考えていく中で、少しずつAにも変化が生じ、他児との関係を築くことができた。年長児とは、昨年以上に関係性も深まり、そのおかげで成長が実感できた。</p>	<p>一人ひとりを大切にできているのか、異年齢の子どもたちの発達段階や、個々の発達に適したあそびや環境を提供できているのか日々、迷い悩みながらの教育・保育だった。教師間でその都度話し合い、違う観点からの考えもあつて、教師自身の成長に繋がれたと思う。同時に、日々の保育の振り返りや、教師間での話し合いの大切さを実感した。日々、悩みながらの保育であったが、今後の保育に繋げて、活かしていける点も確認でき、良かったと思う。</p> <p>年齢や発達段階で差がある中で、日々のあそびに制限がかかってしまうこともあり、年齢に応じた安全性の配慮や伸び伸びと楽しめるあそびや環境を作る難しさを感じつつ、今後、考えながら取り組んでいきたいと思う。</p>
5 歳児	<p>楽しみながら異年齢の子どもたちと関わりを持ち接してきたが、少しずつ年下児との生活に疲れが見え始めたため、教師側もあえて年長児に手伝いの呼び掛けや促しをしないようにし、子どもたちのプレッシャーにならないよう見守ってきた。年長児が思うように行かない場面があつたが、子どもたちの姿を受け止め、年長児だけの場所や時間を設</p>	<p>予想以上に色々な面で手を取られることが多く、これまで行ってきた事や、計画していた事が出来ずに過ぎたことが度々あつた。子どもの声にすぐに応えられず、待たせる場面も多かった。</p> <p>これまで少人数クラスで生活してきたこともあり、教師が関わりすぎてしまう場面があつた。待つ事を心掛けてきたが、難しさを痛感した。</p>

	<p>けるように、その時に出来なかった遊びを取り入れたり、継続して遊べるように環境を考えてきた。</p> <p>後半以降は、活動が活発になり、教師がそれぞれ子どもの姿を見ることで、自分だけでは気付かなかった子どもたちの姿や関わりもお互い別の視点で気付くことがあり、教師間で共有する事が出来た。</p>	<p>子ども同士の関わりを崩してしまわないように、見守ることの大切さを改めて感じた。</p>
<p><b>総括</b></p>	<p>異年齢保育（混合クラス）を実施するため、どのような環境の準備が必要か検討していたが、初めてのケースだったため、予想以上に困難なことが多かった。</p> <p>設定当初は、新鮮さもあり、活発に交流するが、様々な問題が生じ、教師も対応に追われることもあった。</p> <p>その都度、教師間で話し合い、対応の仕方に関して協議し、見守ることの大切さを共有し、協力し合うことで乗り越えていった。</p> <p>問題が生じたことも確かにあったが、日にちが経過していく中で、異年齢間の信頼につながり、良い方向に向かっていったと自負している。</p> <p>次年度は、今年の実践を踏まえ、教師自身が自由あそびの概念を根本から見直していく必要があると考える。</p> <p>そして、保護者との連携を密にして、安心して園生活が送れるように努めていくことが重要である。</p>	<p>幼稚園教育要領に記載してあるように、幼稚園教育で最も重要なことは「環境を通して教育を行うこと」である。その環境で大切なのは人的環境である保育者である。子どもたちが主である生活や遊びが営まれるように、一人ひとりの子どもの思いを理解し、教師が入り込みすぎずに子どもが安心して過ごせるように見守り、異年齢児の保育に取り組んでいくことが大切になる。</p> <p>幼児期は、自然に触れ合うことが最も重要な時期である。園庭のみならず四季の自然を感じる園外活動を十分に体験していく事は、とても重要である。</p> <p>自由あそびの時間を大切にし、子どもたち自身が考えたあそびや活動をいかに実現していくかは、次年度の大きな課題である。</p> <p>自己研鑽を積む研修にも個々に力を入れていく必要もある。</p>

③ 保護者アンケート結果（令和7年2月20日から2月25日実施）

Q 1 本園の教育方針「あそびの中に学びがある」。子どもたちは幼稚園でたくさん遊び、学んでいると感じますか。（回答者 23人）

- 「あてはまる」 76%
- 「だいたいあてはまる」 24%
- 「あまりあてはまらない」 0%
- 「あてはまらない」 0%

Q 2 西南幼稚園は、子どもの興味・関心から生まれることを大切にしてくれていると感じますか。（回答者 23人）

- 「あてはまる」 87%
- 「だいたいあてはまる」 13%
- 「あまりあてはまらない」 0%
- 「あてはまらない」 0%

Q 3 友だちとかかわることの楽しさが育っていると感じますか。（回答者 23人）

- 「あてはまる」 64%
- 「だいたいあてはまる」 36%
- 「あまりあてはまらない」 0%
- 「あてはまらない」 0%

Q 4 混合クラスになり、お子様の成長を感じますか。また、混合クラスの良さを感じますか。（回答者 23人）

- 「あてはまる」 61%
- 「だいたいあてはまる」 18%
- 「あまりあてはまらない」 17%
- 「あてはまらない」 4%

Q 5 運動会や発表会など行事を通して混合クラスの良さを感じますか。また、お子様の成長を感じますか。（回答者 23人）

- 「あてはまる」 39%
- 「だいたいあてはまる」 44%
- 「あまりあてはまらない」 17%
- 「あてはまらない」 0%

保護者アンケートの結果、保護者に、本園の教育成果をおおむね評価していただいている様子うかがえた。

混合クラスについては、「あまりあてはまらない」または、「あてはまらない」といったご意見もいただいた。少数意見ではあるが、貴重な意見としっかりと受け止め、今後に繋げていきたいと思う。

また、保護者の方に、園での取り組み（混合クラスの良さ・園児の成長やプロセス・教師が課題や見直しが必要と感じたことに対して、どう向き合い、改善していったのか）の詳細をもっと伝えていかなければならないと感じた。その発信方法についても、改善が必要であると感じた。

#### ④ 保健・安全についての自己評価

○ 評価指標：保健・安全に関する事項について、計画通り実施できたか。

- A：十分達成されている
- B：達成されている
- C：あまり達成されていない
- D：取組が不十分である

○ 自己評価：A 年度当初に予定した学校保健安全計画に沿って、環境・衛生管理を全て行うことができた。

#### ● 学校関係者評価結果

評 価 項 目	評 価
<b>【教師の質】</b> 「教師の関わり方」、「子どもを読み取る力」を更に高める。 1. 保育内容、ケース会議、カンファレンスを丁寧に行い、教師間の共通理解・幼児理解を深める。 2. 金城大学、金城大学短期大学部講師による園内研修の開催。 3. 園外研修に参加し、教師の質の向上を図る。	A：2人 B：1人 C：1人
<b>【教育】</b> 1. どのような経験や環境が必要かを模索し、子どもの主体性を生かした教育を行うために、満3歳児から5歳児までの混合クラスとして保育を行う。 2. 遊びを深めていけるようなコーナーを充実し、異年齢の子ども達が混ざり合い、刺激し合える環境を構成し、空間作りを考えていく。	A：2人 B：1人 C：1人

<p>3. 多様な考えを持ち、その考えや思いをどの教師にも伝えることができるよう、安心して日々を過ごせるよう配慮をしていく。</p> <p>4. 大きな行事（運動会、発表会など）の見直しを行う。遊びの流れや繋がりなどを見極め、年齢にとらわれず組み込んでいく。</p> <p>5. 混合保育を行う中でも、各年齢の育ちを大切にしていくために、計画的に各年齢の活動を行う。取り入れる。</p>	
<p><b>【保護者理解】</b></p> <p>幼稚園教育の理解・教師の保護者理解・保護者支援・幼児理解・家庭環境の深まりを図る。</p> <p>1. 個の姿やクラスの様子を伝える</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師の思いや願いを伝える。</li> <li>・結果だけでなく、そのプロセスを伝える。</li> <li>・どういった学びや成長に繋がるのか伝える。</li> </ul> <p>〔クラス懇談会（年1回）、個人懇談会（年2回）、クラスだより（全学年のおたよりを載せる）、写真の配信、インスタグラム〕</p> <p>2. 場合により、電話で伝えたり、直接話し合う場を設ける。</p> <p>3. 行事を通して園での様子を見ていただく。</p> <p>4. 保護者アンケート実施</p>	<p>A：1人 B：3人</p>
<p><b>【保健・安全】</b></p> <p>1. 水質、ダニ・アレルゲン、換気・温度・相対湿度、気流・浮遊粉塵、照度検査</p> <p>2. 園庭遊具の安全点検</p> <p>3. プール衛生点検</p> <p>4. 防災関連見直し（防災マニュアル、防災用品・備蓄）</p> <p>5. 防災訓練の実施及び見直し（火災、地震を想定した避難訓練・津波を想定した大学・小学校4階への避難訓練・大学4階での引き渡し訓練・防災に関する講演会）</p>	<p>A：3人 B：1人</p>
<p><b>【感想と所見】</b></p> <p>※ 園長先生のリーダーシップのもと、子どもの主体性を育むために混合クラス・混合保育へと舵を切られたことに敬意を表します。日々の子どもの姿を全職員で共有し、改善に向けて検討しながら、保育をすすめ、努力されてきたことを高く評価します。</p> <p>※ 混合保育となり、手探りの中、一年頑張っていたらと思います。先生方の子どものために真摯に向き合い、試行錯誤されている様子が伝わります。努力されて</p>	

いたこと評価します。

- ※ 混合クラスの取り組みについて、メリット・デメリットはあると思います。デメリットの部分をしっかり課題とし、改善しようとする姿は評価できると思います。混合クラスのありたい姿からそれずに改善できるよう保護者側も応援していきたいと思えます。
- ※ 先生方の自己評価、P D C Aを拝見し、全体を通して、全園児数が少ない現状での混合クラスのメリットは大きいと感じた。取り組み内容も子ども達に寄り添ったもので、西南幼稚園の良さを改めて感じる事ができた。
- ※ さらに保護者の理解と協力を得るための方策を改善することが課題だと思いました。子どもの成長や変容が職員の言葉ではなく、実際に保護者が実感することで保護者の皆様も安心され、西南幼稚園を選んでよかったと思っただけのいいですね。
- ※ 時代は、可視化することを求めています。保育（教育）も可視化し、それを評価する方向が進んでいます。保育は目に見えないことを大切にし、目に見えないものを評価することが多いので評価しにくいです。それをあえて評価するためには、まず、子どもの遊びや生活を客観的に、一人ではなく先生方皆さんで評価（皆さんで評価できるのは混合保育の利点ですよ）し、それをもとに先生方の保育を複数の先生方で評価し合うことで、評価できるようになってくると思います。先生方が書かれた自己評価のエビデンスを提示して欲しいと思います。そうすることで、保護者アンケートで混合クラスでの子どもの成長の問いに「あまりあてはまらない」「あてはまらない」が少なくなっていくと考えます。
- ※ 行事が多いので、必要な行事を見直し、行事の準備優先ではなく、保育と先生方の自己研鑽優先で業務を行って欲しいと感じました。
- ※ 個別対応が必要な園児が多かったことによる人手不足は、これからのより充実した教育や先生方の労働環境に大きく影響を与えるため、改善が必要な課題だと思う。

評価員4人からの評価について、4つの評価項目において、B評価に近い結果であった。また、「感想と所見」の記載から、概ね、混合クラスの取り組みについては評価員の方々からは評価のお言葉をいただいた。ただ、アンケート結果からも分かるように、まだまだ保護者全体から高評価の結果を得られていない状況からも、保護者の理解と協力を得るための方策について改善する余地があると受け止めた。

また、先生方全員で保育の可視化に取り組み、そして、全員で自己評価し、それを複数の先生方で評価し共有することで、成長していくのではないかとのご意見をいただいた。

他、貴重なご意見もあり、これを真摯に受け止め、教育の質をより向上させるために、他園との交流を深め教師の視野を広げていくことも必要になると考える。園生活の場全てが幼児にとって大切な学びの場であるということを再認識し、令和7年度の混合保育に向けて保育活動の見直しを検討していきたい。

## <おわりに>

今年度の重点目標を「混合保育の中で異年齢の子ども達が、異年齢の枠を超えて学び合い、成長していく」として、1年間取り組んできました。まず、春休み中に行ったことは、これまでの各クラスの用途を、早期保育・預かりの部屋、主に生活スペースとなる部屋、主に遊びのスペースとなる部屋、フリースペースとなる部屋として大幅に見直したことです。異年齢の子ども達が、毎日の生活を安心して過ごすことができるためです。また、教師一人ひとりが意識改革を行い、教師間の連携を深め、互いに共通理解を持てるように、今まで以上にミーティングの機会を増やしました。

その結果、年齢の枠を超えて、仲良しの相手と夢中になれる遊びを見つけ、継続させていく姿が見られるようになりました。そして、様々な活動の場面で、年長児は憧れの存在となり、年中児、年少児にも、自然と「真似る・手伝う・手助けする」などの姿や、「心・知恵・知識」など大切なことを生活や遊びを通して自然に身につけていく姿が、見られるようになりました。また、教師も一歩引いて見守り、寄り添うことで、子ども達に互いの関わりや、遊びの広がり、深まりが見られるようになりました。そして、それぞれに多様な考えのあることを知り、認め、許容できるようになり、教師も成長することができました。

一方、課題としては、「混合クラスとしての経験や育ち」と「各学年の経験や育ち」のバランスが取りにくく、特に、「各学年の経験や育ち」については、もっと学年で過ごす場面設定の必要性を感じているところです。同時に、年齢の枠を超えて学び合い、成長していくためには、「混合クラスとしての経験や育ち」を高める環境作りにも工夫を凝らして取り組んでいかなくてはなりません。また、支援を必要とする子どもも多く、教師の手が足りないと感じる時もありますが、安全面の配慮や教員の配置はしっかり行いつつも、互いに育ち合う力を信じて大切に育てていきたいと思えます。さらに、今年度は、異年齢の枠を超えて学び成長して行けるように、大きな行事の運動会や発表会を見直しているところですが、保護者アンケートでは、混合クラスの良さを感じられないという回答も一部ありました。保護者の皆様のご意見を謙虚に受け止め、今後、ご理解が得られるように、混合保育の良さを生かし、子ども達の主体性がもっと発揮できるような教育に取り組んでいきたいと思えます。

さて、昨年度末にこども家庭庁より、「はじめの100か月の育ちビジョン」が、発表されました。「はじめの100か月」とは、母親の妊娠期から幼保小接続の重要な時期（いわゆる5歳児～小1）までです。幼児期までこそ、生涯にわたるウェルビーイング（身体的・精神的・社会的に幸せな状態）の向上に最重要であり、そのために、アタッチメント（愛着）と豊かな「遊びと体験」が不可欠です。西南幼稚園の教育方針は「あそびの中に学びがある」ですので、混合保育の中で、より一層主体的に遊びを広げていけるように、職員一同、多様な意見を尊重しつつ、心をつなげて頑張りていきたいと思えます。

最後になりますが、西南幼稚園の様々な事業や取組に対し、ご支援ご協力をしていただいた保護者の皆様、松陽小学校を始め地域の関係者の皆様、そして、金城大学や短大の関係の皆様に心より感謝申し上げます。

園長 太田 淳子